

基礎看護学

専門分野

授業科目	診療補助援助技術Ⅰ	講師	氏名	①有吉美里 ②清水京子	開講年次	単位・時間	
			所属	①病院 ②専任教員			
			実務経験	①皮膚・排泄ケア認定看護師 ②臨床看護師			
科目のねらい	治療には、身体侵襲や苦痛を伴うものが多い。ここでは特に治療のために必要な処置を理解させ、対象者の侵襲や苦痛を最小限にした安全・安楽な診療の補助援助技術の基礎を学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> 清潔・不潔の区別を行い、基礎的な無菌操作ができ、気管内吸引と導尿ができる。 感染のない創傷処置を説明でき、包帯法を実践できる。 中央配管・酸素ポンプの取り扱い、酸素投与器具・吸入の種類と特徴を説明できる。 吸引圧や吸引時間を説明でき、モデル人形の口腔内・気管内吸引ができる。 モデル人形に経管栄養の適切な位置に挿入ができ、注入速度を調整できる。 体位、浣腸液の温度、挿入の長さを解剖学的根拠を説明でき、モデル人形に対して浣腸液の注入ができる。 						
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> 苦痛のある処置に対して配慮した声かけができる。 処置を受ける対象者の心情を考慮することができる。 エビデンスをもって、援助技術を計画、実施、評価できる。 演習で学んだ技術を様々な対象者（小児期、老年期）を想定し、対象に応じた援助技術を考えることができる。 演習で学んだ技術を様々な健康障害を想定し、対象に応じた援助技術を考えることができる。 						
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> 人体の構造と機能を復習し、処置の目的、方法、根拠を学習できる。 主体的に学習ポートフォリオに蓄積させ、講義終了後に蓄積された成果物を更に凝集させ、オリジナルなものにまとめ提出できる 						
科目評価	①定期試験（実技）100% ②定期試験（筆記）70% ポートフォリオ30% 合計100% ①②ともに合格した者を単位取得とする。						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術（メディカ出版） 系統別看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統別看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）						
参考文献	看護技術プラクティス（Gakken） 写真でわかる基礎看護技術Ⅰアドバンス（インターメディカ）						
回数	教育内容	教育方法				関連科目	留意事項
		講義	演習	到達レベル	その他		
1	無菌操作	○				清水京子 有吉美里 清水京子 からだの構造 からだの機能 日常生活から見るからだ 小さな生物 療養生活援助技術Ⅱ 各専門看護学	<ol style="list-style-type: none"> 演習時は白衣着用、アールーム 手順書を作成して演習に臨む。 演習後に必ず自己練習を実施する。 講義終了後にポートフォリオ提出
2	挿子・手袋・滅菌バック		○	Ⅱ			
3	創傷処置 褥瘡処置		○	Ⅱ			
4	包帯法・三角巾		○	Ⅱ			
5	酸素吸入療法・吸入	○					
6			○	Ⅱ			
7	吸引（口腔内・気管内）・電法	○					
8			○	Ⅱ			
9	導尿・膀胱留置カテーテルの管理	○					
10	導尿・膀胱留置カテーテル		○	Ⅱ			
11							
12	浣腸・摘便	○					
13			○	Ⅱ			
14	経鼻経管栄養・胃チューブ挿入	○					
15			○	Ⅱ			
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						